

<感想>

元気になり励みになりました。ありがとうございました

映画の中で、先生や子どもたちが寄り添う姿、背中をやさしくさする姿が、印象的でした。それに本当に小さなことかもしれませんが、私にもできることからやってみようと思いました

友だちに暴力を振るってしまった子が心から反省していた様子が表情でよくわかりました。自分を信頼してくれる先生。見守ってくれる先生、本気で悪いことは悪いと教えてくれる先生がいたからこそだと思いました。大空小学校で教えることは「自分がされたらイヤなことは人にしない」「それだけ」ときちんと教えていたことがすごいと思いました。簡単なことの様で教えるのは難しいことだと思います

保育士をしています。小5、小2の子どももいます。本当にいろいろ考えさせられました。また、ぜひ子どもと観たいです。ありがとうございました

保育の現場にいる私は、とにかくすごい！素晴らしい！こんな学校、こんな見守りもっともっと増やしたい！自分もそうなりたい！と強く思いました。そして、自分の地域でも広めます

とても感動しました。同じ子どもと関わる仕事をしているものとして大変勉強になることが多かったです。大空小学校に実際に行ってみたくなりました

一言ではあらわせないくらいとても勉強になりました。本当の教育に触れたように思います。上映会ありがとうございました

こんな自由な公立小学校があるなんて知らなかった。これが本当の話でよかったと思いました

とてもとてもよかったです

結局、変わらなきゃいけないのは大人なんだなと感じました。大人の先入観は子どもの芽を摘むことになりかねないと思いました

教育現場はもっと大変だと思います。その一部をみることができ、よかったです

一人一人が自己主張をしっかり出し合える環境を大人の手で作り、子どもたちがそれぞれ受けとめて日々成長していける環境が素晴らしすぎて胸が熱くなりました

胸が一杯で正直何も書けません…。教師をしています、「きちんと並ぼう」「帽子をかぶろう」etc そんな指導必要なのか?!とこの映画をみつつ思い、いややっぱり必要だろ!?!と自問自答…。いろんな思いがうずまいています…。ぐちゃぐちゃですみません

親に連れてこられて、あまり乗り気ではありませんでしたが、今ではこんな良い映画を見ることができて良かったです。良い機会をつくっていただきありがとうございました

先生たちには是非観てほしい。大声でどなられることの多い小学校、学芸会の出来が評価につながるの？毎日練習でどなられる子ども達。付き添い登校しても、担任以外から声をかけられることのない日々…。校長をはじめ多くの先生達一人ひとりに考えてもらいたいです…

とても良かったです。地域の大人として、学校ではなくても、こんな風に子どもと関わっていきたいと思います

本を読んでいたのでとても楽しみに来ました。子どもひとりひとりが大切にされる学校、本来の学校の姿ですよね。校長と教職員のカベのないところもすばらしかったです。西東京市でもこうした学校が現れるといいですね

みんなで作り上げていく学校の姿に感動の連続でした

言葉にならないものをたくさん感じましたが、これが在り方なんだ、こんな学校でなければ…と思います。息子は市内一中出身でI組さんがあり、運動会やいろいろな関わりから、自然に子どもたちが感じ取る環境は大切だと、親も子どもも感じています。せめて、一中のような学校が増えることも大切かと思います

いろいろと考える機会を与えてくれるよい映画だと思います

職員室の雰囲気がとてもよくて、教職員全体で子どもたちを見ていることがわかりました一言で言えませんが、子ども達のユニークさをつぶさない校長先生の教育はすばらしいと思いました。西東京やこのエリアにも同じような教育の場があればいい…と思います

とても心あたまる映画でした。娘の小学校もこんな学校ならよいなと思います

学校全体が一つの家族の様でみんなが関わっていくことがとても大切であり、これは学校だけでなく社会全体にも言えることと思います。子どもにとっては認めてあげることが大事であり、まちがった時はしっかりわかるように対話することが必要であり家族間でもそうであると思います

すばらしい！！しかし、むずかしい。愛がなければとてもできない

長女が知的しょうがいがあるので、人ごととは思えず、校長先生をはじめとする先生のご苦労、ご努力に感動しました

感動しました。公立でもこのようなことができるのですね。子どもへの対応の仕方など勉強になりました

西東京の全学校で上映会をするとよいと思った。校長がすばらしかった。校長の教育論の本みたいなのがあったら読んでみたい

校長先生の強さやさしさ、子ども達の笑顔、すばらしかったです。卒業してもこの笑顔が続きますように

大空小学校は特別な学校ではなく、本来学校とはこのようなものだと思う。人が育つということを改めて考えさせられました

まわりの意識が変わることで、だれもが受け入れてもらえる場ができる。それを、強制されるのではなく、自ら考えることによって作り出す。すばらしい取り組みです。感動しました

子どもの小学校の時を思い出しました。通級に通いながらなんとか卒業しましたが、周りの理解がもっと得られたらもう少し楽しく通えたと思います。全国の全小学校の全教員に見てもらいたいです

とても良い映画でした。健常児も障がい児も共に生きる…とても大事な事です。大空小学校の校長先生、先生方、子ども達、その親、すべてに関わる人たち、とても素晴らしいです。大空小学校のような学校がもっと増えるといいなと思います

大人が本気でかかわること。子どもどうしでかいけつしてゆけることなど。希望を感じました

涙がいっぱい出ました。もう一度観たいです

一人一人のできること、可能性を伸ばしていく教育はいいと思いました。そのこの特徴をみんなに理解させることのできる先生がいることが重要だと思いました

みんながつくるみんなの学校を、この町でもみんなでつくりたいですね。みんな違ってみんないい！な社会づくりをしましょう。ありがとうございました

厳しい中にも愛のある教育。子ども達一人一人が「自分は大切にされている」と感じられる教育。すばらしかったです

とても感動しました。自分の考えになかった部分、大切にしていなかった点など考えさせられました

とっても素晴らしいとりくみでした。全てこうであったらどれだけよいかと思います

すべての人を尊重する教育、すばらしいです。小学校だけでなく社会全体がそのようになることを願います

特別支援学級のことをよくわかり、校長先生が一人一人かかわっていることがいいところだと思いました

いろんな地域にこんな学校がふえるといいなと思いました。先生の苦勞がとてもよくわかりました

個性をどのように生かして、成長させるか考えさせられました。如何に社会に適応させられるか、とけこむことができるか、考えさせられました

学童、放課後事業で働いていますが、同じように支援の必要な子がいるので、関わり方など参考になることがたくさんある映画でした

やっとみることがでよかったです。学校関係者とか、子育て中の方だけでなく、大人がみなみる機会をもてるとよいです。たくさんのこと考えさせられました。心に響きました。

誰にとっても…とはこういうことだと思いました。もう1度みたいです

本日は有難うございました。教育現場のこのむずかしさをクリアするとは…頭がさがる思いでいっぱい。こんなにうまくいくか、半信半疑。今でも…

勉強を教えるだけではない。人を育て、子どもから大人まで一人一人が真剣に問題を考え、みんなで良い答えを探していく学校に感動しました。周りの人たち、先生方にもすすめたい映画です

改めてインクルーシブの大切さというのを知ることができた。一方で、いわゆる通常の子はどう思っているのか、先生方は通常の子の学びにもアプローチできているのかが気になりました。「多様性」を力に変えるという言葉がこの映画にピッタリきてはまった

とても感動は致しました…が、実際はもっと大変なのかなと思います
大変感動しました。どんな障がいを持っていようとも、皆人間。共に関わりながら、生きていくが大切だと感じました

とても感動したと同時に、同じ子どもでありながら、こういう受け入れられる居場所のある子ども達と、そうでない子ども達の違いに愕然としました。同じ子どもなのに。自分がそこで何ができるか、考えさせられました

感動。あの様な校長先生はなかなかいないと思います。1人でも増えればと思います
子どもたちに「いい子」「よくない子」はないと思いました。みんなありのままの姿で生き生きと生きる姿が輝いていました。決して甘やかすのではなく「人としてどうあるべきか」教える大空小学校。全てを受け入れて、心に寄り添う周りの先生方、サポートの方々、子ども達の笑顔がとても印象的で幸せな映画でした。ありがとうございました

いろいろなところで上映してもらえたらと思います

ずっとうるうるで感動のしっぱなしでした。校長先生、かつこよすぎます。地域の人間として、何ができるか考えていきたいと思います

すばらしい！あの学校で仕事をしてみたいと思いました

前評判にたがわず、大変良い作品でした。小学校に関わる大人も子ども達も、日々成長していく存在であることが映画から感じられました

素晴らしい映画でした

子どもたちが自分の意志で”考え学ぶ”ことの大切さ。まわりの環境でこんなにも変化があるのかと驚きました

一方的な見方ではなく、いろいろな気持ちと考えながら人と接することが”大事だ”と改めて考えさせられました

地域の中にあのような学校があればいいな一と思いました。大人も子どもも各々大変な課題の中で生きていることになるけど、成長するんだらうな一と思いつつ見ていました

重くてすぐには書けません、特別支援教育はまわりの子どもを育てていかないということ、大変なことを実践でやっつけていかれていてびっくりさせられた

昭和30年代には普通だったことのように思う。しかし、学力中心の時代になると段々変わっていくことになるのかもしれない。小学校6年間は良いが（この学校で）中学から大変だと思ってしまった

知人からのこの映画を知り、今日は娘と観に来ました。ほほえましく、涙が自然と出てきました。いろんな人に見てもらいたい映画ですね。何度でも観たいと思いました。母として私も学びたいと思いました。次回は主人にも観せたい！

教員をしています。素直に感動しました。どの子も同じ場所で過ごすこと、それぞれの子どもに合った支援をしていくこと、どちらも大切なところもあると思います。大阪だからこそ、あの校長先生がいたからこそ、もあると思います。職員室で、子どものこと、あらゆること、共有し、叱ったり、励ましたりできる環境は素晴らしいと思います。今、教員

の半分以上が若手になっていく中で、難しいところもあると思います。でもいろいろ学ぶところがあり、自分にできることから取り組みたいと思います

見たい見たいとずっと思っていたのですが、期待通り（以上！）本当に素晴らしい映画でした。「支援の必要な子」、家庭環境が複雑な子、どの子もみんな安心していられる場…。

学校は本当にそうあってほしい。教員集団も素晴らしい

この学校に映画と知ることができてよかった。なかなかいろいろな人と混ざること、面倒ではじかれてしまう世の中であってはいけません。小学校だけで終わってしまうのか…。

あたりまえのことを普通に言う校長先生、あたりまえのことを考えて考えて言わない今の世の中。すごいことしてるなと考えました

なかなかこのようにはいかないものです。校長先生の力、教職員の協力、どうしたらできるのでしょうか。難しいものです

先生、生徒、地域の人、みんなで学校をつくるというのは、言葉はかっこいいけど、本当に本気で関わらないとできないことで、自分も本気でやらなきゃいけないと感じました

素晴らしい学校です。子どもたちも先生たちも、サポーターも方々も。多くの方々に見てもらいたい映画です。もう1度見たいと思いました

障がいをもって生まれた子の兄弟は、その子と一緒に暮らすことで自然に身につくことが多いように、周囲の子どもたちが、自分とちがう子を認めて受けとめられるような環境を幼少のころから大人が作ることが大切かなと思います。先生たちが真剣に子どもたちに向き合っていたところがとてもよかったです

感動の涙が止まりません。こんな学校が点から面になってほしいと心から思いました

校長先生の言葉がひびいた

3～4回涙ぐんでしまいました。素晴らしい学校ですね。こんな学校がたくさんあったらもっともっと住みやすいやさしい町になるのではと心があたたかくなり、又、いろいろと考えさせられました

とてもよかったです。知人にすすめます！いろいろと考えさせられました。ありがとうございました

特別支援を必要とする子や親にとっては、とてもいい学校ですが、それを支える先生や健常の子たちのストレスや苦勞が多そうで、そっちのフォローが大変そうと思いました。支援級に通う子の母です

とっても考えさせられるいい映画でした。いろんな小学校でも上映できればいいなと思いました

もう1度みたい映画でした

地域で学校をつくるという事が印象的だった

感動しました。大人の社会の影響で子どもが苦しんでいるのでしょうか。大人が良い社会をつくらねばと勉強になりました

感動しました！

子どもの気持ち、思いをよく聞き出している先生方がとてもよかった

一人一人の気持ちしだいで人は変わるということが印象的だった。先生たちの子どもへの愛情がとても感じられた。心があたたかくなる映画だった

地域みんなで子どもを見守りながら、子どもが変わるのではなく、周りの人が変わっていくという大切なことを教えられた気がします。今後の未来のためにも、見る目を変えていく努力を日々していきたいです

<子ども施策、教育への意見>

大空小の子が中学校に行った時もこのような地域が続いてほしいと思いました

公立では素晴らしい先生がいつも異動してしまい先生が変わるとガラッと変わってしまうことがあります。学校、職員、地域で子どもを見守り先生1人の責任にしない。みんなで1人の子のことは見守り、考えるという大空小学校のようなことがどこでもできるとよいと思います

全国で広め、もう一度教育見直してほしい

このような学校が1校でも増え、小→中→高と広がり地域社会に広がっていくことを願います

この映画のように大人たちが子どもたちを見守る環境が広く長く続けばいいなと思います。子どもは想像以上にいろんなことを考えていて、この校長先生のようにけっこう難しい言葉でも適確に具体的にお話ししてあげることが大切だと思いました

西東京市の小中学校でも、少しずつ要支援や不登校の子についての理解が深まって、先生方、学校が変わっていけるようになるといいと願っています。我が子の不登校でものごく苦勞しました

特別支援学級の教員数が少なすぎると感じています

子どもたち、全ての中でも緊急性が必要な子どもたちがいることにもっと自分も含め、公的にも目を向けて欲しいと切に願います

不登校の子ども、学校があまり好きではない子どもの居場所や学習機会をつくってあげられたらと思います

地域のカラーが、子どもたちの学校生活にそのまま反映していると思います。古い地域の考え方から新しい世代を活かす発想へ…子ども達のスペースが広がると思います
教師、保護者、地域ボランティアのご協力をいただいしょうがいのある人達をささえていく重要性和難しさを改めて感じました

一人一人・ていねいに対応できるようにしたいです

すべての子ども達が笑顔で学校生活を送れたらと思います

子どもの貧困、居場所は子どもにアプローチするだけでなく、その背景（親の経済状況、家族関係など）にあるものと考えていかなければならないですね。みんなが関心を持ち身

近な問題として捉えることができれば、住みやすく、生きやすい世の中になっていくのでは…と考えます

周りも育つ。子どもも大人も。理解して共に育ててほしい

西東京市の小中学校は、とても遅れていると思います。まず、先生の理解がない。障がい者を障がい者として見るのではなく、1人1人の個性として受け止めて欲しい。

私の子ども達もいろいろかかえています。毎日、安心して通える学校を西東京市に必ず作ってください。笑顔をもっともっとふえる学校をお願いします。まずは、西東京市の教員全員にこの「えいが」を観てほしいです

先生方には子ども1人1人を見てほしい。全員が同じにしかみしてくれない事が特徴のある子にとっては悲しいし、苦しいだけだと思います。支援級、通常級も同じに見ていると思います(1人1人をみていない)

学校関係者です。現場では、窮屈に教育をしています。みんなの学校のような、管理職が増えて行ってほしいと思いました

教員と保護者が共に語り合えるような場があればと思う

とても難しい問題ですが、まず、親がその子を信じることが大事だと思います

”人”が育たないと、人を育てる場は作れないと思いました

子どもの居場所づくり、木村校長の本にもありましたが、「公教育とは何か」を見つめ直し、大人も子どもも管理され「スタンダード」に押しこめさせる、押しこめられるあり方、やり方を根本的に変えていくべきだと思います。あんなに頑張っている、全ての教職員にも働きがい、教職員削減、賃金カットにも反対です

「学校は子どものための物」という基本的な事をほんとうに理解してやってくれている先生がどれだけいるか…。管理職がどれだけいるのか。原点に戻ってみんなで考えたいです
自分のことを認めてくれる人や場所があることが、これからは大切な

1クラスの人数(35人)は多いと思っています

リタイアした学校の先生が放課後の教室を使って補習授業を行なったりできればいいのに
と思いました